第 35 回土木構造物検討会　議事録

1. **開催日時** ： 2026 年 7 月 27 日（月）　15 時 00 分～17 時 00 分

2. **開催場所** ：一般社団法人 日本電気協会 D 会議室（Web 会議併用）

3. **出席者**（順不同，敬称略）

出 席 委 員：大鳥主査（東京都市大学），佃(産業技術総合研究所)，上田委員(京都大学)，
伊藤幹事(関西電力)，岡田(電力中央研究所)，松山(電力中央研究所)，
星(北海道電力)，西本(北陸電力)，清木(中国電力)，鈴木(四国電力)，　(計10名)

代理出席者：高橋(東北電力，坂本委員代理)，大島(東京電力 HD，小川委員代理)，
仲田(中部電力，森本委員代理)，香西(電源開発，中村委員代理)　(計 4名)

欠 席 委 員：京谷(東北大学名誉教授)，小松(横浜国立大学)，福田(九州電力)，
坂上(日本原子力発電)　(計 4名)

常時参加者：松下(中部電力)，村上(関西電力)，河野(関西電力)，宮川(電力中央研究所)，
兵頭（東電設計），松本（ニュージェック）　(計 6名)

オブザーバ：太田(原子力規制庁)　(計 1名)

事　務　局：川口，美濃(日本電気協会)　(計 2名)

4. **配付資料**

資料 No.35-1　第 34 回土木構造物検討会議事録（案）

資料 No.35-2　土木構造物検討会委員名簿

資料 No.35-3-1　JEAC4601-2021 の技術評価会合の進捗および、今後の改訂作業について

資料 No.35-3-2　日本電気協会「原子力発電所耐震設計技術規程（JEAC4601-2021）」に関する技術評価書（案）

資料 No.35-3-3　「耐震設計に係る日本電気協会の規格の技術評価に関する検討チーム会合における日本電気協会への説明依頼事項（その２）」に対する回答

資料 No.35-3-4　「原子力発電所耐震設計技術規程の技術評価に関する日本電気協会への説明依頼事項」のうち、第５章 屋外重要土木構造物他の耐震設計に関するものに対する回答

資料 No.35-3-5　JEAC4601/JEAG4601 の改定について

5. **議　事**

会議に先立ち事務局から，本会にて，私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後，Web 会議での注意事項の説明があり，その後大島主査による開催挨拶があり，その後議事が進められた。

(1) 配付資料の確認，定足数の確認（代理出席者・オブザーバの承認）等

事務局より配付資料の確認の後，現時点で委員の出席者は，代理出席者を含めて 14 名であり，分科会規約第 13 条(検討会)第 15 項の議案決議に必要な委員数「委員総数（18 名）の 3 分の 2 以上の出席（12 名以上)」を満たしているとの説明があった。オブザーバ 1 名の紹介があり，分科会規約第 13 条(検討会)第 11 項に基づき，主査の承認を受けた。さらに常時参加者希望者 3 名（中部電力 松下様，東電設計 兵頭様，ニュージェック 松本様）の紹介があり，分科会規約第 13 条(検討会)第 8 項に基づき，常時参加者として承認することについて，分科会規約第 13 条(検討会)第 15 項に基づき決議の結果，特にコメントはなく，出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(2) 前回議事録(案)の確認(審議)【議題 1】

事務局より資料 No.35-1 に基づき，第 34 回議事録(案)の説明があり，正式議事録とすることについて，分科会規約第 13 条(検討会)第 15 項に基づき，Web 機能により決議の結果，出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(3) 委員交代，新委員候補について【議題 2】

事務局より資料 No.35-2 に基づき，以下の検討会委員の変更があり，新委員候補については，分科会規約第 13 条(検討会)第 4 項に基づき，次回耐震設計分科会で承認予定であるとの紹介があった。

・退任　坂本　委員（東北電力）	・新委員　高橋　様（同左）
・退任　大川　委員（東京電力 HD）	・新委員　大島　様（同左）
・退任　森本　委員（中部電力）	・新委員　仲田　様（同左）
・退任　福田　委員（九州電力）	・新委員　　東　　様（同左）
・退任　中村　委員（電源開発）	・新委員　香西　様（同左）
・退任　大津　常時参加者（中部電力）	・新常時参加者　松下　様（同左）
・新常時参加者　兵頭　様（東電設計）	・新常時参加者　松本様（ニュージェック）

(4) JEAC4601-2021 の技術評価会合の進捗および今後の改訂作業について【議題 3】

JEAG4601-2021 技術評価のうち第 5 章について，伊藤幹事および事務局より資料 No.35-3-1～5 に基づき，技術評価の進捗状況および，JEAC4601 の改定作業に関する過去の整理状況について説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

・ 土木構造物以外（第 3 章，第 4 章）のエンドースの見込みはどうか。

→第 3 章は評価書案が出ていないが，土木構造物と同様に性能規定の体裁であることについて指摘されている。また，エンドース範囲が本文であることを考えると，解説記載されている仕様規定的内容は，エンドース対象外になり得る可能性がある。第 4 章は，技術基準

で想定していない範囲（弾塑性サポート、制震ダンパー等）はそもそも評価できないが，4 章のその他の部分はエンドースされる内容があるものと認識している。

・ 耐津波の JEAC4629 も将来エンドースを受けるには全面的な書き換えが必要か，またどう対応するのか。

→エンドースされることが望ましい点は JEAC4601 と同様である。検討会でエンドースを目指すと決まれば，JEAC4601 技術評価で指摘された記載を次回改定で反映するか，現状で要件を満たすと判断した場合には技術評価へエントリーすることも考えられる。説明資料の検討フローは，次期改訂の議論の出発点として決定事項であるのか。

→決定事項ではなく，当時の整理案である。案として重視しつつ、現在の技術評価でのご意見を踏まえて見直していくものである。

・ 屋外重要土木構造物，津波防護施設，基礎地盤・斜面の関係について，1 つにまとめるか 3 つに分けるか等を最初に議論する必要があるのではないか。

→過去の改訂の議論を行った時点でも立て付けは未決定であった。津波防護施設のみを別章とする意見もあったし、土木全体で一つの章にするか対象毎に分けるのか，議論のポイントになると考える。また、JEAG4601 の基礎地盤・斜面についての JEAC への移行も併せて検討が必要と考える。

・ 仕様規定化の対象や技術評価にかけない分野を整理すること，改訂作業の体制を検討する必要があるか。

→仕様規定化は膨大な労力がかかるため，エンドース対象を絞り，そうでないものは整理したうえで着手するイメージである。現状の技術評価書案が提示されているのは一部にとどまるため，残りが出た段階で津波防護施設に関する内容も確認し，前さばきを行うのがよいと考える。また，耐震評価と耐津波評価を合わせて一つとする指摘もあったため，作業が無駄にならないよう事前に確認することも一案であるが，技術評価書が出てからスケジューリングしなおすことでもよいと考える。

(5) その他【議題 4】

次回土木構造物検討会については，技術評価の状況等を踏まえ別途連絡する。

以　上